

匠の技術にふれたくて知っているようで知らないものづくりの現場を訪ねました。

大人の社会見学

「和紙づくり」が盛り

香美町・矢田川沿いにある村岡区長須地区。ここでは約60年前、地場

さんは、地元神戸で服飾の仕事をしてきた頃、とある機会にふれた「まちづくり」に関心を持ち、この事業に参加することとなった。

増やし技術を充実させた。その努力が実り、完全に途絶えていた長須の「和紙づくり」が、新しい形となって生まれ変わり、地域に芽生え始めた。

に行われており、当時、障子紙などに用いられた「射添紙」と呼ばれる和紙が生産されていた。

「同じ『ものづくり』でも自然に還元するものをつくりたい」そう考えた本多さんにとつて、「コウゾ」や「ミツマタ」の植物を材料とする和紙づくりは、彼女の求める「ものづくり」にぴったりだった。さっそく地区の旧公民館を利用した「ながす紙すき小屋」を開設。本格的に和紙づくりに取り組むようになった。

材料は、昨年から住民の協力のもと、集落内で育てた「花オクラ」を使用。現在は、長須の山に自生していた「楮」の苗木も育てている最中。

時代の移り変わりとともにその姿を消していくこととなった和紙づくりだが、現在、地域コミュニティとして復活し、村岡区の伝統文化として見直されている。

「最初は、紙すきを始めようにも、生成の知識や道具がほとんど残っていませんでしたので、本やネットで調べながら試行錯誤しました」と当時を振り返る。

「和紙づくりで地域が元気になるれば本当にうれしい。これからは和紙づくり以外にも挑戦して、他の地域との交流を増やしていきたい」と、語る本多さんは、ものづくりから発展する、地域おこしに魅力を感じ、新しい風を吹かせている。

ものづくり×まちづくり ながす手すき紙

ものづくりを通して育む
人と地域のコミュニティ
元気で楽しく過ごせるまちづくり

そのきっかけを作ったのは、神戸市からインターンし、香美町の地域おこし協力隊として「ながす手すき紙プロジェクト」に取り組み、本多秋香さん。元々「ものづくり」が好きな本多

その後は研修へ赴くなど、知識を



昨年から小規模集落サポーターとして長須へやってきた本多さん。現在は香美町の地域おこし協力隊の一員として活躍中。



美しい紙をすくために、原料繊維を水中に1本1本むらなく分散させておく「花オクラ(トロロアオイ)※材料のひとつ」。地区民と村岡高校生が畝づくり、タネ植えから栽培に協力している。



長須神社の隣にある紙すき小屋。高台から集落と矢田川が見降ろせる。

手すき和紙を使って作成した行灯とうちわ。

地区で自生していた紙の原料のひとつ「楮(こうぞ)」。クワ科の落葉低木。繊維が頑丈で、主に障子紙など、和紙づくりに幅広く使用されている。

DATA

■紙処ながす 本多秋香(ほんだ あいか)
香美町村岡区長須 TEL.0796-80-1207
<http://www.kamidokoro.org/>
Facebook : 「ながすくらす」
Blog : <http://nagasuu.blogspot.jp/>



別宮の棚田と氷ノ山

たんぎん カードローン SPEED POCKET PLUS スピードポケットプラス

ご来店不要 スピード審査 返済用口座不要

詳しくは当行ホームページまたは窓口までお問い合わせください。

但馬銀行
TAJIMA BANK

ぷらっとミュージアム



知っているようで知らない、あなたの町のミュージアム。お散歩がてら、ぷらっと寄ってみませんか？

あさごげいじゅつのもりびじゅつかん

Vol.6

あさご芸術の森美術館



すばらしいこの帯翔飛

淀井作品の特徴

岩肌のようなゴツゴツしたタッチと細長くテフォルムされたフォルム。余分なものは削ぎ落とし、芯で「そのごと」をイメージさせている。

彫刻のドッシンとしたイメージとは逆に軽くて動きのある空間を作り出している。

さわってみよう！
屋外作品は手で触ることができるよ。
ゴツゴツを体感してみようよ



やさしくさわってね

ボクは彫刻庭園にいますよ見つけてね！



繊細なフォルムの秘密はここにあった

一般的な塑像
まずは粘土で形成し、それを削ったりしながら作り上げる。
淀井作品は「石膏直付け法」
木材や針金などで心棒を作り、麻の繊維を混ぜ込んだ石膏を、この心棒に直接肉付けをして作品を作り上げる。



細長い首が味わ

東京芸術大学の講師時代、隣接していた上野動物園にて彫られたキリンをモチーフにした作品。

野外彫刻をこれだけ展示している美術館は全国的にも珍しいですよ！常設展以外にも様々な作家の企画展を常に開催していますよ



淀井作品は日常の何気ないシーンを切り取った作品が多いんです。「ローマの公園」はベンチに座る女性をモチーフに。

案内をしていく伊藤さん



淀井 敏夫

Toshio Yodo
1911 ~ 2005

文化勲章受章の彫刻家。朝来市佐中に生まれ、6歳まで過ごす。東京美術学校(現東京芸術大学)彫刻科卒業。同大学美術学部長を務め、東京スカイツリーを設計した澄川喜一ら多くの逸材を輩出した。日本芸術院会員となり、美術団体「二科会」の理事長を務めた。

作品の原点は朝来にあった

「私の作品の原点になったのは朝来て過ごした幼い日の記憶でした。記憶に残る朝来の美しい自然の営みを思い出しつつ、日々の制作に取り組んできました。」
*淀井さんの言葉から一部抜粋



遠い山並み、青い空と白い雲

木立を吹きわたる風と魚のさえずり...

芸術の森で見つけた！

野外オブジェ Pickup! 「Seven Friends」

「あさごアートコンパニオン2013」の大作作品！奈良県の帝塚山大学の学生さんたちの作品なんです。丸みを帯びた黄色い立体が特徴。口のようなデザインは挨拶やコミュニケーションの意を表しているんだとか。芸術の森では、屋内・屋外作品を毎年交互に全国規模で募集している。



入口近くで出迎えてくれます

あ、ほー！

芸術の森に昨年増えた仲間です！

ごんごん

いっしょにい！

あさご芸術の森美術館 — 淀井敏夫記念館 —

[所] 朝来市多々良木 739-3
[時] 10:00 ~ 17:00 (6/1 ~ 8/31は 18:00まで) *入館は閉館30分前
[休] 水曜および祝日の翌日(水曜が祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え日 [料] 一般500円、大・高生300円、中・小生200円
TEL.079-670-4111

朝来市多々良木。緑豊かな里山に個性あふれる彫刻が並ぶ「あさご芸術の森」を進んでいくと、自然石を積み上げた雄大なロックフィルダムが姿を見せる。このダムの前に佇む「あさご芸術の森美術館」では朝来市出身の彫刻家・淀井敏夫の作品が屋内に常設展示されている。

広々とした芝生が気持ちいい彫刻庭園からは、ダムを見上げることができ、まるで作品の一部のよう。

「自然とダムとの空間を彫刻がつないでくれているので、一体感のある空間が作り出されているんです。芸術の森の入口から点々と展示されている野外彫刻が、桃源郷への期待感を盛り上げてくれる存在となっています」とは館長の伊藤照哉さん。美術館へと続く道沿いには、全国公募で優秀な成績を収めた作家たちの作品が配置されている。自然とアートが一体となった芸術の森へ出かけてみよう！

Comic Pit OPEN!!!

コミック・同人誌・文集・ライトノベルなどの、カラー・モノクロ印刷から無線とじ製本までネットで注文。

コミック・同人誌・文集・絵本などの印刷・製本

無線とじ製本

オフセット印刷

小説・ライトノベル 卒業文集など

モノクロ印刷 製本も受付

30部まで受付

ネットで簡単に注文できるよ!

お問い合わせは 岩見印刷株式会社 コミックピット事業部 ☎0796-42-1200 詳しくは [コミックピット.jp](http://comicpit.jp) 検索